

## 平成 2 1 年度第 2 回 防災ボランティア活動検討会

### 資料 2 全体会午前の部 資料

「第 5 回静岡県内外の災害ボランティアによる  
救援活動のための図上訓練」について

平成 2 2 年 3 月 1 8 日

**第5回**  
**静岡県内外の災害ボランティアによる**  
**救援活動のための図上訓練**

**実施日:平成22年2月27日(土)・28日(日)**  
**会 場:静岡市民文化会館 大会議室・A展示室**

**主催・共催:**静岡県、(特活)静岡県ボランティア協会、(財)静岡県労働者福祉基金協会  
(社福)静岡県社会福祉協議会、市町社会福祉協議会  
**協 力:**静岡県労働者福祉協議会、連合静岡  
西日本電信電話(株)静岡支店  
**実施主体:**(特活)静岡県ボランティア協会  
東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会  
**協 賛:**ダイードリンク(株)、(株)伊藤園、アサヒカルビスビバレッジ(株)  
米久ベンディング(株)

## < 日程 >

### 1日目 (2月27日)

10:00	集合・会場設営
12:00	設営協力者昼食
13:00	受付
13:30	開会 【挨拶】 静岡県危機管理監兼危機管理局長 小林佐登志 財団法人静岡県労働者福祉基金協会理事長 平野哲司 オリエンテーション
13:50	【第1部】 事前課題の振り返り
14:50	休憩
15:00	【第2部】 市町災害ボランティア本部・支援センター・県災害ボランティア 本部の役割・機能と人員配置を考えよう
16:00	休憩
16:10	【第3部】 <前半> 1週間後、被災地や各災害ボランティア本部・センターは どうなっている？ 何をする？ <後半> “連携” のしかたを具体的に考えよう 例題1 「カセットボンベの配り方」
17:20	まとめ、事務連絡
17:30	終了
18:00	懇親会（意見交換会）
(~20:00)	【場所】 ホテルシティオ静岡 5階 (TEL: 054-253-1105) ☆各地の名物を一品持ち寄り“ネットワークづくり”を！

### 2日目 (2月28日)

9:00	オリエンテーション
9:15	【第4部】 「例題」通して連携上の課題を具体的に検討する
12:00	昼食
13:00	【第5部】 ふりかえり・まとめ オリエンテーション
15:15	閉会式
15:30	終了、片づけ

第5回  
静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練  
開 会 式

日 時：平成22年2月27日(土)  
13時30分～13時50分  
会 場：静岡市民文化会館A展示室

1. 開 会

2. 挨拶

静岡県危機管理監兼危機管理局長

小林 佐 登 志

財団法人静岡県労働者福祉基金協会理事長

平 野 哲 司

## 第5回 静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 オリエンテーション

### 1. 日程説明

### 2. 会場

#### 【A展示室】

- メイン会場で、静岡県内の「市町災害ボランティア本部」「県支援センター」の島(グループ)があります。
- NTT静岡支店による衛星回線を利用した展示があります。

#### 【大会議室】

- 「県災害ボランティア本部」と「県外団体」の島があります。
- コピー機、印刷機はこちらです。
- 東海地震と阪神淡路大震災の被災地の広さが比較できる地図があります。
- コミュニティFMの展示があります。
- 東海地震ドットネットの展示があります。
- 参加団体の紹介や資料コーナーがあります。

### 3. 文具・紙類など

大会議室とA展示室の間に文具や紙類予備を置きますので、足りなくなった際はとりに来て下さい。ただし、数量に限りがありますので必要な分だけお持ちいただくようご協力下さい。

### 4. 昼食

2日目の昼食におにぎり弁当を注文した方には引換券をお渡ししていますので、なくさないようお持ち下さい。注文していない方は各自ご用意下さい。

### 5. 飲み物はご自由にお取りいただいて結構ですが、1本50円以上のカンパを下さるとうれしいです。

### 6. 1日目の終了後、荷物や資料は一旦お持ち帰り下さい。また、資料には名前をご記入下さい。

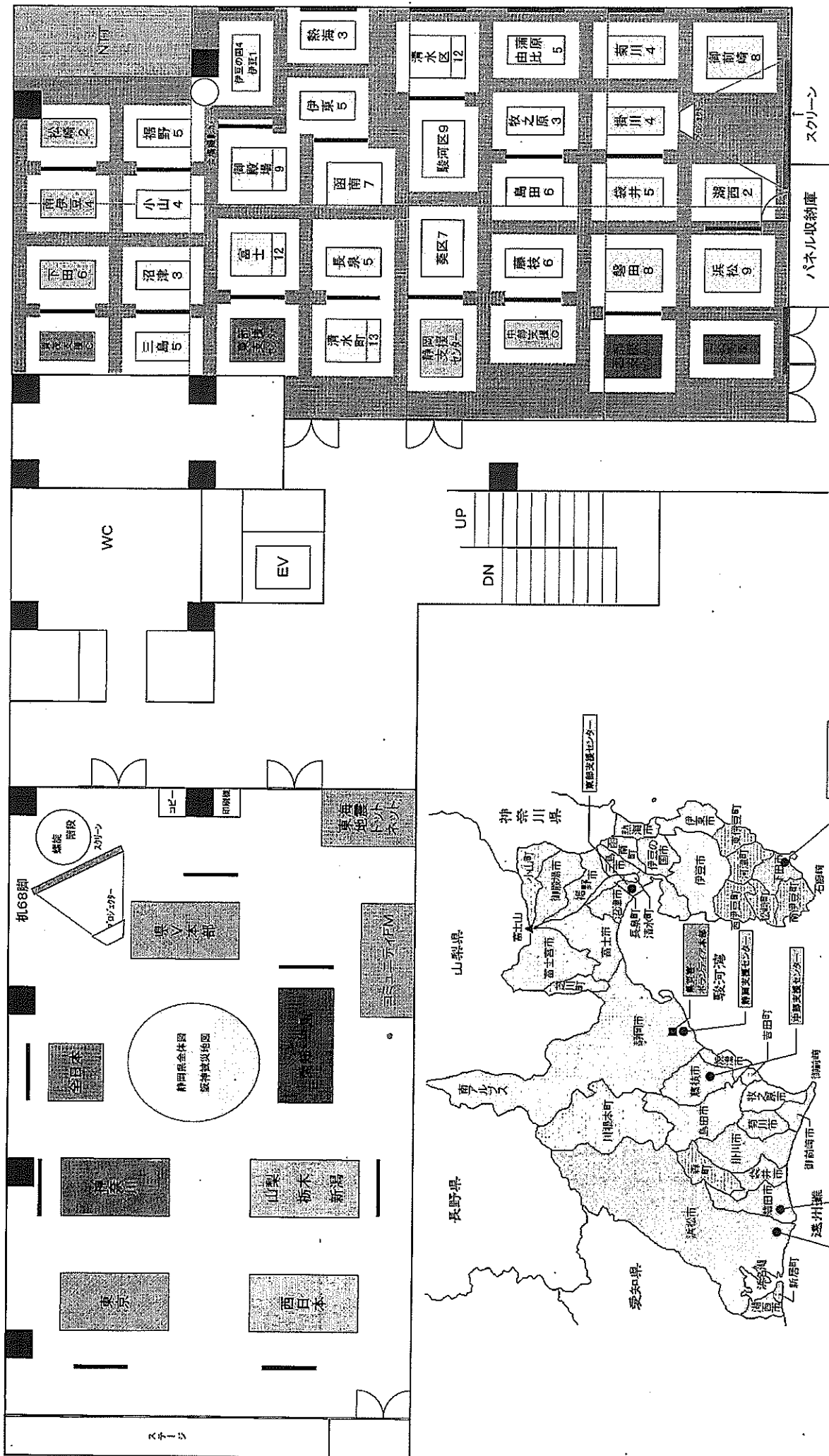
### 7. 「171」について

今回の訓練に合わせ、NTT静岡支店が災害用伝言ダイヤル171・web171を開設して下さいましたので、ぜひ体験してみてください。詳しくはNTTのブースでお尋ね下さい。

- 市外局番「054」で始まる番号が登録できます
- web171は携帯番号も登録できます。パスワード：1234567

### 8. 報告書について協力をお願い

訓練報告書の作成にあたり、参加者の皆さまにもご協力をお願いします。市町災害ボランティア本部、支援センター、県ボランティア本部、県外の島ごとに訓練の様子や記録をまとめて下さい。要領については事務局の小野田が各島をまわり説明しますので、担当者を決めておいて下さい。



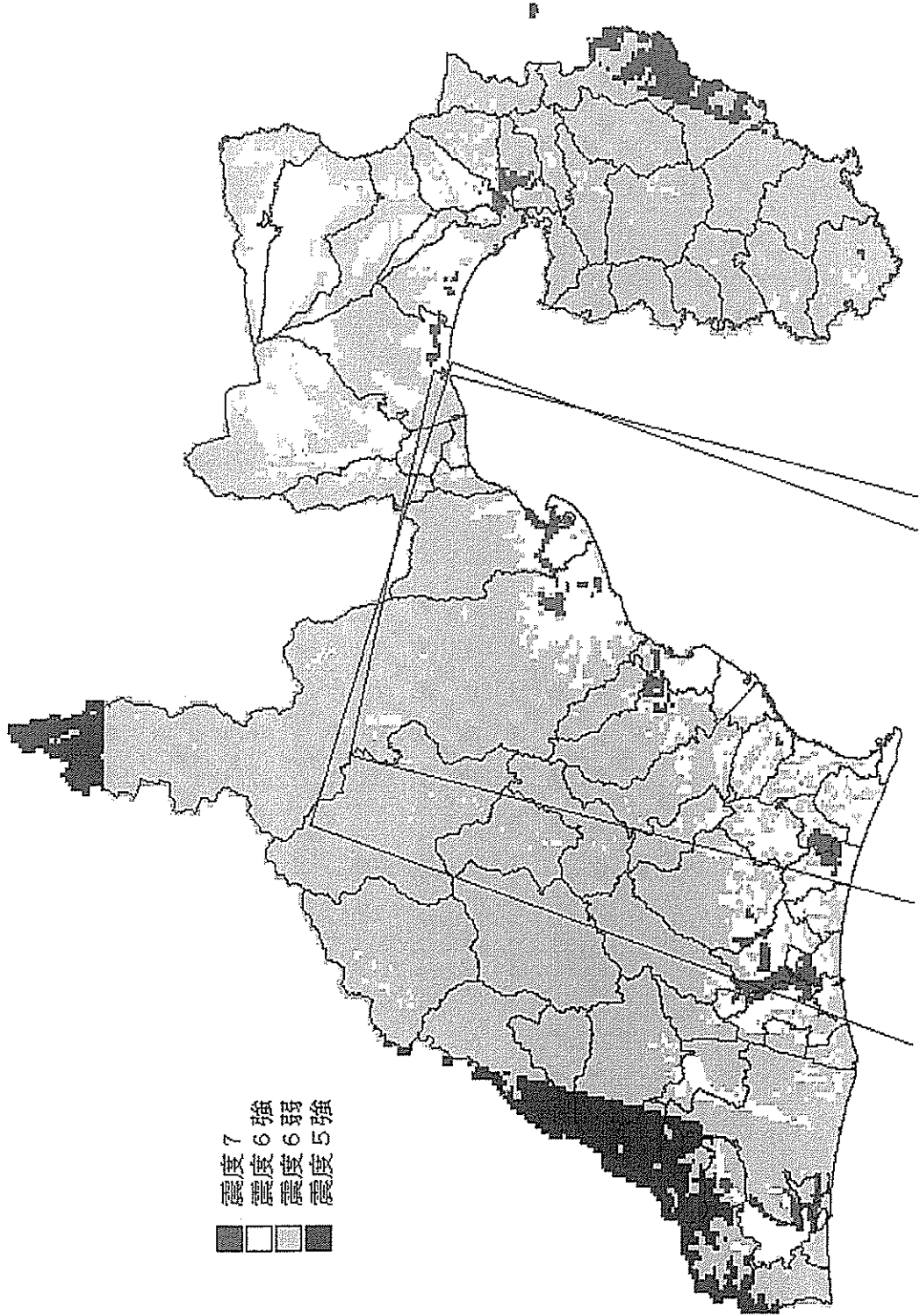
# 図上訓練 全体の流れと参加者の動き

「頭上訓練」のねらい：広域連携のための「支援センター」の実証訓練（実験）

- ① 「広域連携」のあり方を県内外の参加者で、模索しよう！
- ② 県内6か所の「災害V支援センター」の役割や課題を洗いだそう

時間	テーマ	ねらい(目標)	訓練する内容			県外参加者
			各市町災害V本部	支援センター	県V本部	
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町区を知ること</li> <li>被害想定と被災者ニーズが時間経過でどのように変化するかを確認・共有</li> </ul>	訓練前に事前学習を行うことと、訓練内容にスムーズに入れる	各市町単位の事前学習会を実施	支援センター	県内用・県外用の事前学習資料読み込み	県外事前学習を行う
第1部 13:50～14:50	事前学習の確認と共有	参加者全員の共通認識づくり	市区町ごとに参加前課題のまとめと情報の共有			各市町区町へ入り状況を把握する（発言はできない）
第2部 15:00～16:00	各市町災害V本部・支援センター・県災害V本部を立ち上げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町災害V本部・支援センター・県災害V本部を立ち上げる</li> <li>市町災害V本部・支援センター・県災害V本部の役割や機能</li> <li>市町災害V本部・支援センター・県災害V本部の役割や機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町災害V本部の災害対応マニュアルの役割や機能</li> <li>各市町災害V本部の災害対応マニュアルの役割や機能</li> <li>各市町災害V本部の災害対応マニュアルの役割や機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管轄市区町災害V本部の状況を観ながら、役割と機能及び組織図を考える</li> <li>市町災害V本部の災害対応マニュアルの役割や機能</li> <li>市町災害V本部の災害対応マニュアルの役割や機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下の状況確認</li> <li>県社協+県V協等で役割と機能を確認し、組織図を考える</li> <li>リエジゾンの171メッセージを15:30以降確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会議室にて</li> <li>訓練目的の再確認</li> <li>地元主体の再確認</li> <li>3部以降の活動説明</li> <li>県外メンバーは、リエジゾンの171メッセージを15:30以降確認する。</li> </ul>
第3部 前半 16:10～	1～2週間後、被災地からのメッセージ発信と広域連携の模索	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地元住民と②被災地外に対し、それぞれ発信する情報をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外参加者に被災状況を説明</li> <li>「市町V本部から発信するメッセージ」をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2部継続</li> <li>「支援センターから発信するメッセージ」をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町区町や支援センターの状況把握（様々な面から）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当の各市町区町に入り一緒に作業をする</li> <li>県内各所の潤滑油となるように意識する</li> </ul>
第3部 後半 ～17:20	支援センターの役割を活かして、広域連携のしかたを実験してみる	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外の連携を意識し、情報の流れと支援センターの役割や課題をさぐる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外の他のグループと「連絡票」を使ってやりとりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援センターや県外のグループと「連絡票」を使ってやりとりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町区町以外のグループと「連絡票」を使ってやりとりする</li> </ul>	
第4部 9:15～12:00		第3部に引き続き『広域連携』のありかたをさぐる	第3部と同じ条件で「連絡票」を使ってやりとりする			
第5部 13:00～15:00	ふりかえり・まとめ	来年度に向けた課題の洗い出し	報告書に記載する項目ごとにとまとめる			

# 静岡県東海地震被害想定





# 東海地震被害想定・静岡県計

<自然現象> 想定震度面積計: 7713.9 km<sup>2</sup>

3種区分地盤種		注	
地盤種	面積率	地盤種	面積率
第1種地盤	69.1%	第1種地盤	34.9%
第2種地盤	2.0%	第2種地盤	2.0%
第3種地盤	28.9%	第3種地盤	63.1%

想定震度	
震度区分	面積率
5強	5.0%
6弱	7.4%
6強	18.9%
7	1.7%

想定地盤液化化危険度	
危険度区分	面積率
岩盤相当	71.2%
危険度なし	0.8%
危険度小	8.1%
危険度中	9.5%
危険度大	4.5%

想定津波危険度	
想定項目	想定値
波高	37.85 km <sup>2</sup>
浸水面積	6.17 km <sup>2</sup>
浸水深 2m 以上	4.44 km <sup>2</sup>

<物的(建物)被害> 総建物棟数 1,528,349 棟 (DATA 収集基準日 1998.1.1)

地震動及び地盤の液化化による想定建物被害	
区分	棟数、被災率
大破	131,183 棟 8.80%
中破	292,115 棟 19.10%
一部損壊	290,670 棟 19.00%

山崖崩れによる想定建物被害	
区分	棟数、被災率
大破	3,546 棟 0.20%
中破	8,762 棟 0.60%

津波による想定建物被害	
区分	棟数、被災率
大破	2,240 棟 0.10%
中破	3,666 棟 0.20%
一部損壊(床上浸水)	7,429 棟 0.50%
一部損壊(床上浸水)	14,955 棟 1.00%

延焼火災による想定建物被害(予知なし・冬18時)	
区分	棟数、焼失率
焼失	58,402 棟 3.80%

人工造成地想定建物被害増	
区分	棟数、被災率
大破	4,774 棟 0.30%
中破	14,322 棟 0.90%

想定建物被害合計(予知なし・冬18時)	
区分	棟数、被災率
大破	192,460 棟 12.80%
中破	294,846 棟 19.30%
一部損壊(床上浸水)	279,433 棟 18.30%
一部損壊(床上浸水)	6,945 棟 0.50%

注)上記要因別被害数間の重複を除いてあるので、単純合計値とは合わない。

<人的被害> 全人口 3,737,360 人 (DATA の収集基準は 1995 年国勢調査)

(予知なし・冬05時)

建物被害による人的被害	
区分	被災者数
死者	4,646 人
重傷者	5,790 人
中等傷者	51,288 人

津波被害による人的被害	
区分	被災者数
死者	227 人
重傷者	276 人
中等傷者	663 人

山・崖崩れによる人的被害	
区分	被災者数
死者	555 人
重傷者	936 人
中等傷者	2,237 人

火災による人的被害	
区分	被災者数
死者	117 人
重傷者	122 人
中等傷者	255 人

ブロック塀・石壁被害による人的被害	
区分	被災者数
死者	23 人
重傷者	81 人
中等傷者	59 人

屋外落下物による人的被害	
区分	被災者数
死者	20 人
重傷者	77 人
中等傷者	446 人

屋内収容物被害による人的被害	
区分	被災者数
死者	176 人
重傷者	11,346 人
中等傷者	30,661 人

道路上の落石・崩土による人的被害	
区分	被災者数
死者	87 人
重傷者	26 人
中等傷者	42 人

人的被害合計	
区分	被災者数
死者	5,851 人
重傷者	18,654 人
中等傷者	85,651 人

<要救助者想定> 28,070 人 (予知なし・冬05時) (倒塌建物に生埋めとなり救助が必要となる人の想定)

# 災害ボランティアの活動拠点と体制

## 1 静岡県の地域防災計画では

静岡県の地域防災計画では、県及び市町は、ボランティアや市民活動団体の自主性・主体性を尊重しつつ、ボランティア活動への支援体制を整えることになっています。地域防災計画を基に、現在、静岡県で考えられている災害ボランティア活動拠点の概要について見てみましょう。

なお、これらの拠点は災害発生時に設置されるもので、平常時から設置されているものではありません。

### ●大規模災害発生時の体制（図1）

大規模災害が発生すると、大きく分けて次の3種類の災害ボランティア活動拠点が設置されることになっています。

①市町災害ボランティア本部

②静岡県災害ボランティア支援センター(以下「県支援センター」という。)

③静岡県災害ボランティア本部・情報センター(以下「県本部・情報センター」という。)

これらの拠点は、それぞれ市町災害対策本部、県災害対策本部方面本部(以下「方面本部」という。)、県災害対策本部と連携しながら活動しますが、行政の指揮下に入るものではありません。

### ●災害ボランティア活動支援概要図（図2）

3種類の災害ボランティア活動拠点はそれぞれ異なる役割を持ち、その役割に応じた設置方法がとられます。

### ●静岡県内の災害時広域ボランティア活動拠点と管内市町（図3）

①市町災害ボランティア本部は各市に設置されます

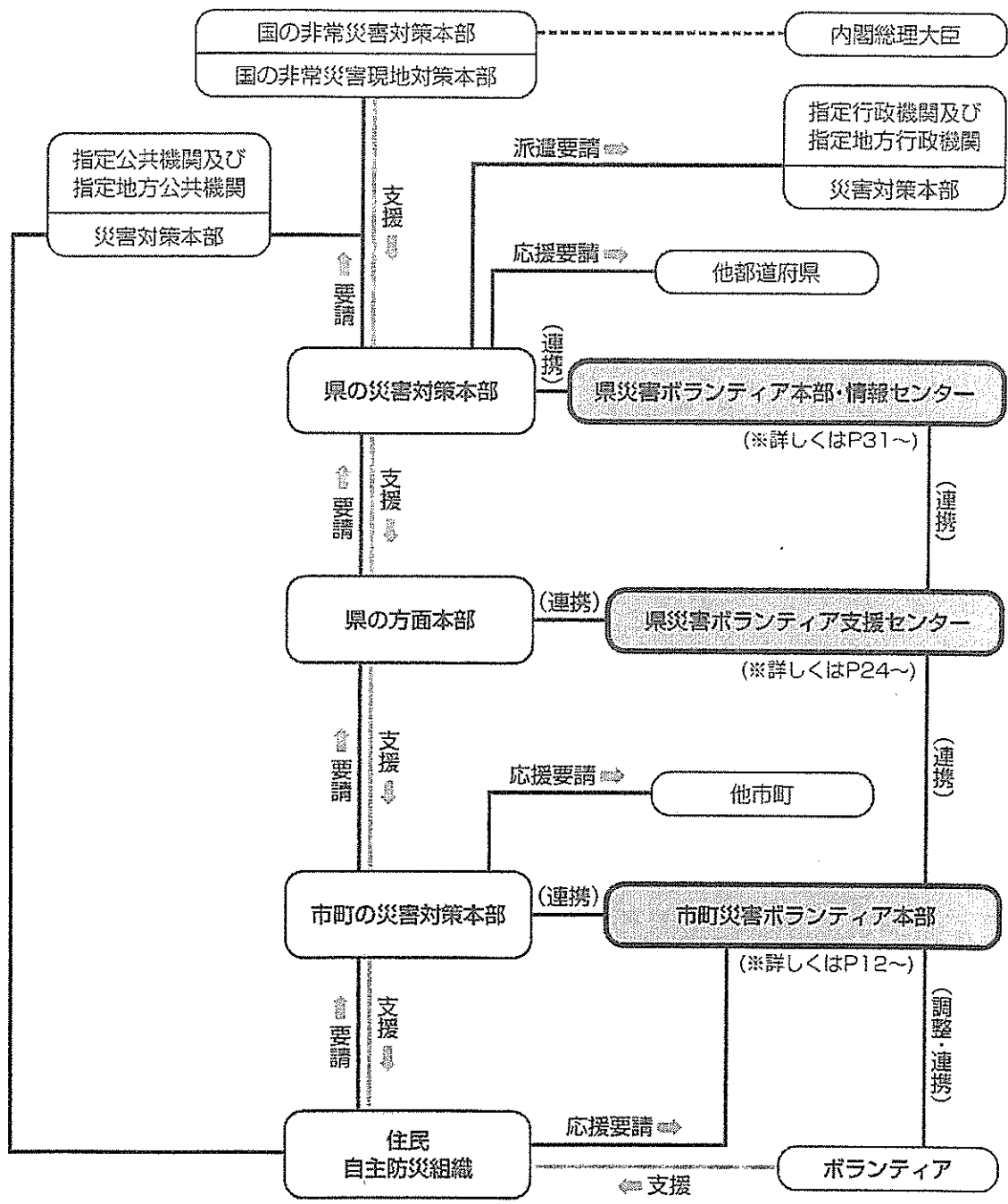
②県支援センターは、県地域防災局が設置されている下田市、沼津市、藤枝市、磐田市に設置され、各地域防災局管内の「市町災害ボランティア本部」を後方支援します

なお、被害の状況により熱海市、富士市、静岡市、浜松市に支援センターが増設されます

③県本部・情報センターは静岡市に設置されます

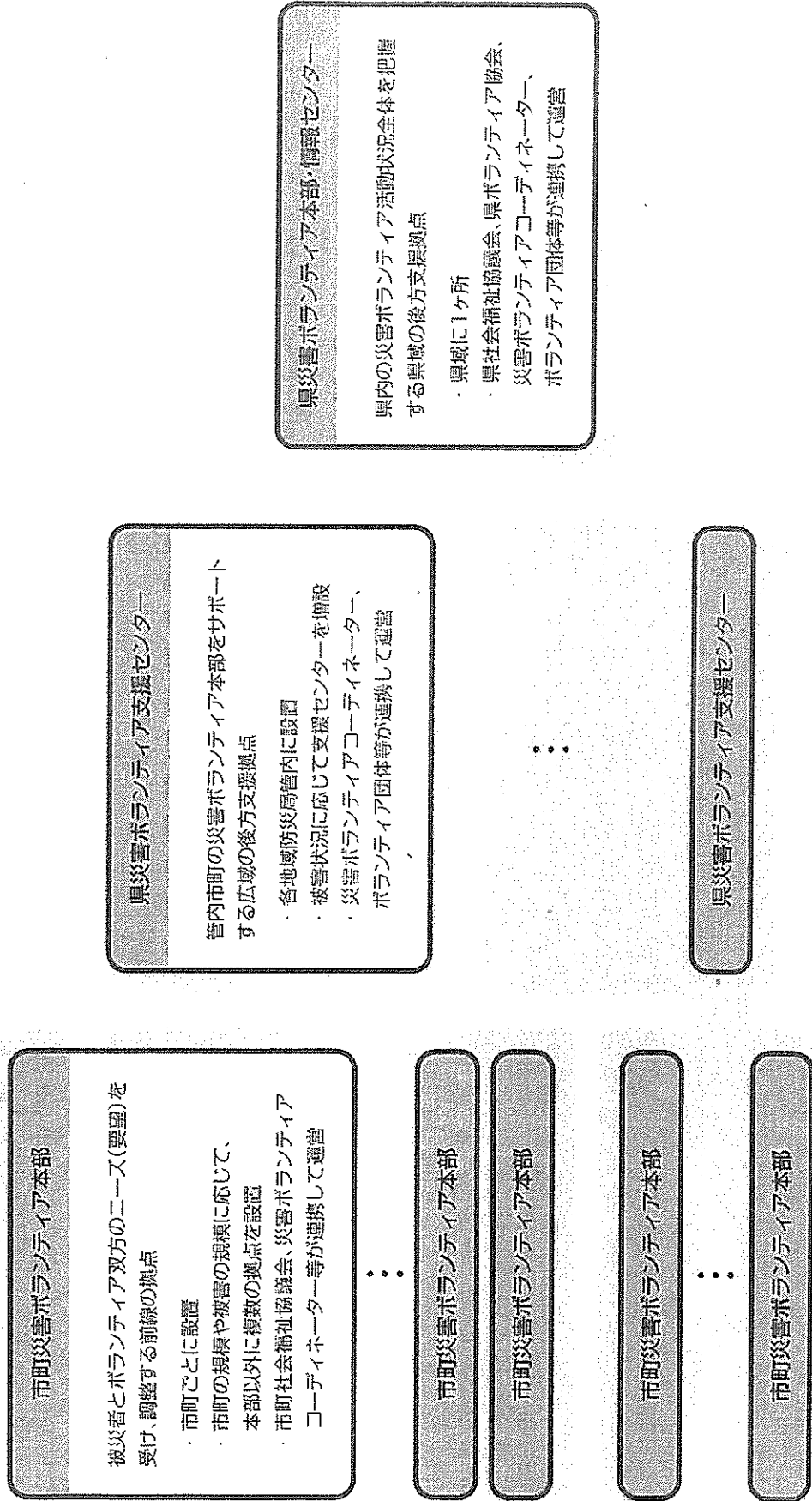
# 大規模地震発生時の体制

図1



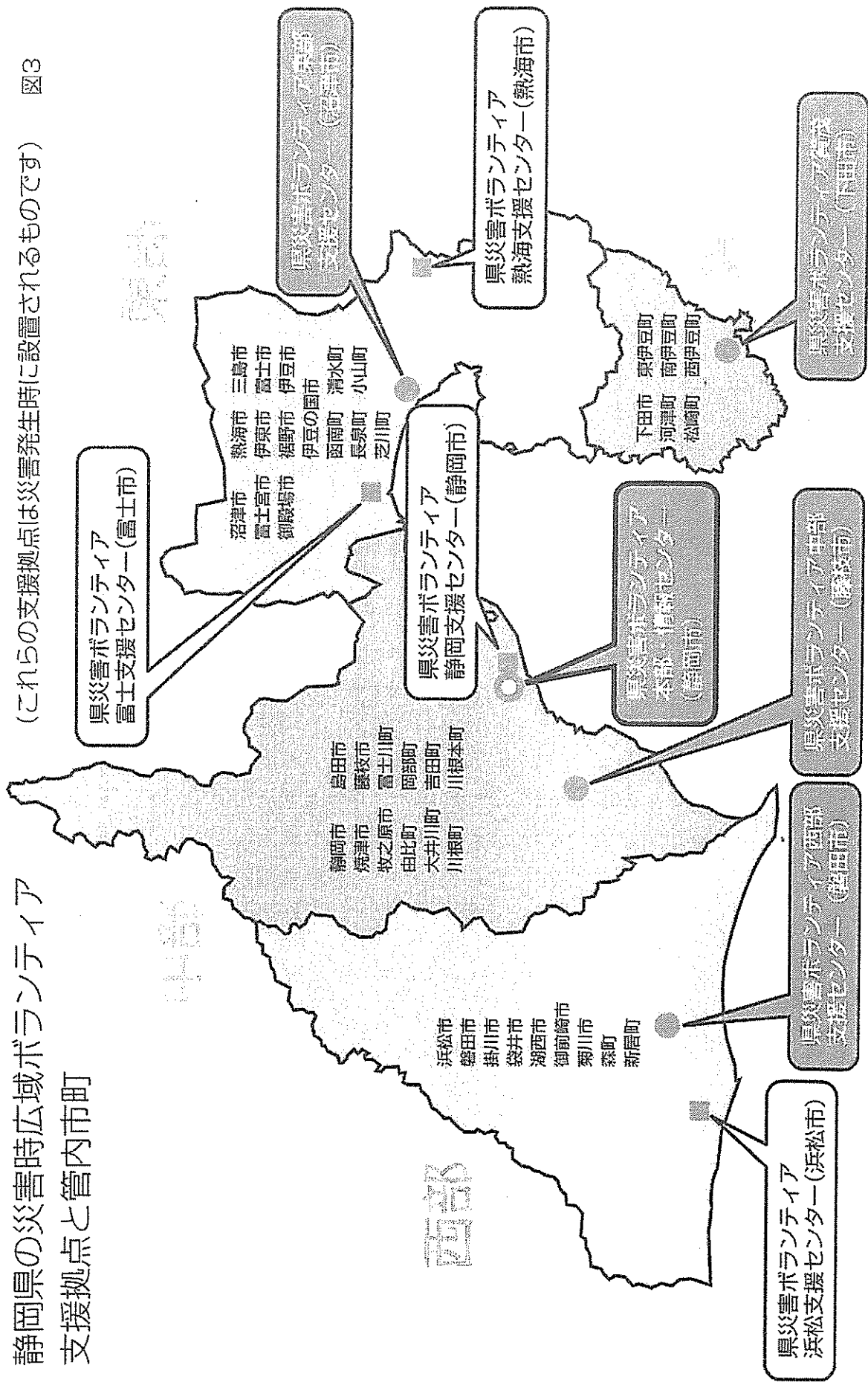
# 静岡県災害ボランティア活動支援概要図

図2



静岡県の災害時広域ボランティア  
支援拠点と管内市町

(これらの支援拠点は災害発生時に設置されるものです) 図3



※ ■ … 支援センターは被害状況に応じて設置します

## 県災害ボランティア支援センター及び県災害ボランティア本部・情報センター 開設予定場所と同管内市町社会福祉協議会

### ■賀茂地域災害ボランティア支援センター

〒415-0016 下田市中 531-1 静岡県下田総合庁舎内

下田市社会福祉協議会	東伊豆町社会福祉協議会	河津町社会福祉協議会
南伊豆町社会福祉協議会	松崎町社会福祉協議会	西伊豆町社会福祉協議会

### ■東部地域災害ボランティア支援センター

〒410-0801 沼津市大手町 1-1-3 県東部地域交流センター「パレット」内

沼津市社会福祉協議会	伊豆市社会福祉協議会	伊東市社会福祉協議会
伊豆の国市社会福祉協議会	熱海市社会福祉協議会	三島市社会福祉協議会
御殿場市社会福祉協議会	裾野市社会福祉協議会	富士宮市社会福祉協議会
富士市社会福祉協議会	両南町社会福祉協議会	清水町社会福祉協議会
長泉町社会福祉協議会	小山町社会福祉協議会	芝川町社会福祉協議会

### ■中部地域災害ボランティア支援センター

〒426-8664 藤枝市瀬戸新屋 362-1 静岡県藤枝総合庁舎内

静岡市社会福祉協議会	藤枝市社会福祉協議会	焼津市社会福祉協議会
島田市社会福祉協議会	牧之原市社会福祉協議会	吉田町社会福祉協議会
川根本町社会福祉協議会		

### ■西部地域災害ボランティア支援センター

〒438-0086 磐田市見付 3599-4 静岡県中遠総合庁舎内

浜松市社会福祉協議会	磐田市社会福祉協議会	御前崎市社会福祉協議会
菊川市社会福祉協議会	掛川市社会福祉協議会	袋井市社会福祉協議会
湖西市社会福祉協議会	森町社会福祉協議会	新居町社会福祉協議会

### ■県災害ボランティア本部・情報センター

〒420-0856 静岡市葵区駿府町 1-70 静岡県総合社会福祉会館 2 階 ボランティアセンター

## 第5回 静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 事前課題【県内】

図上訓練にあたり、参加者の皆さまには事前学習をしていただきます。課題への取り組みが、市町ごとに災害時のボランティア活動をより具体的かつ現実的に考える機会になることを期待しています。限られた訓練時間を有効に使うためにも、チームごとに基本的な共通理解をはかって来て下さい。

### 1. 実施方法

市(区)町単位で参加者全員が集まり、皆さんで課題に取り組んで下さい。可能な限りこの方法を検討いただき、難しい場合もできるだけ参加団体ごと、または集まれる人同士で行って下さい。

### 2. 学習の進め方

- (1) 一人ひとりの経験や知識、知恵などを出し合い、全員で課題に取り組みます。
- (2) 課題は4つあります。まず、それぞれの課題を参加者間で確認します。
- (3) 各課題についているワークシートを完成させていきます。資料を参考にする他、必要に応じて各市町の社会福祉協議会や防災担当課、県地域危機管理局などに相談して下さい。
- (4) ワークシートは課題を考えやすくするためのものです。より踏み込んだ検討が可能なチームは、課題に沿った項目を追加していただいて構いません。また、記入欄が足りない場合は適宜増やして下さい。
- (5) チーム内で課題に対する共通理解ができたことを確認します。

### 3. 内容

#### <課題1>自分たちの市(区)町を再確認します

##### シート1

- ◆皆さんが住んでいる市(区)町について調べ、シート「1」に記入します。項目を追加する際は、シートを参考に適宜作成して下さい。

#### <課題2>市(区)町の東海地震被害想定を確認し、具体的な被害をイメージします

##### シート2

##### 資料1

##### 資料3

- ◆皆さんが住んでいるまちは、東海地震でどのような被害を受けるのでしょうか。各市町で想定される被害を可能な限り具体的にイメージし、シート「2」に記入します。ワークシートを模造紙に書き写し、付箋紙に具体的な被害を書き出して貼るなど、適宜工夫していただいて構いません。
- ◆第3次地震被害想定報告書(資料1)と、皆さんが住民としてお持ちの土地勘(知識・情報等)をもとに、8月11日の駿河湾沖を震源とする地震や12月17日の伊豆半島東方沖の地震被害なども考え合わせ、具体的にイメージして下さい。災害の発生は「予知なし、冬の朝5時」を想定します。

#### 参考

- 静岡県による第3次地震被害想定(東海地震)の市町・町丁目一覧  
「最大震度」「想定死者数」「想定重傷者数」「要救助者数(倒壊建物に生埋めとなり救出が必要となる人の想定)」「建物全壊率」を調べます。  
静岡県地震防災センターのホームページ  
<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/data/pref/higai/data/index.html>
- 資料1「静岡県第3次地震被害想定報告書」(抜粋)  
特に皆さん自身やお住まいの市(区)町に関係する内容を確認します。資料1は抜粋です。他の部分は下記のURLを参照して下さい。  
<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/data/pref/higai/houkoku/index.html>
- 静岡県危機管理局からの緊急危機情報  
駿河湾沖を震源とする地震や伊豆半島東方沖の地震情報が出ています。  
<http://www.pref.shizuoka.jp/kinkyu/index.html>

⇒裏面へ

### ○資料3 「8.11 駿河湾を震源とする地震のアンケート」

コップが落ちた程度の些細なものも含め、どの程度の揺れでどんな被害があったのかを確認し、そこからイメージできる東海地震の被害も考えてみてください。

※インターネットがご利用になれない場合は、市町の防災担当課にご相談下さい。

## <課題3>時間の経過に伴い、被災者が求める“もの・こと”はどう変化するでしょうか

シート3

資料2

- ◆私たち自身が被災したとき、ボランティアを含む救援者に求める“もの・こと”（ニーズ）は何か、また、それらは時間の経過に伴ってどのように変化するのかを考えます。
- ◆今回の訓練は発災後1週間前後を想定して行いますが、地震災害では復興までに長い道のりがあり、支援活動も長期にわたることを確認しておいて下さい。
- ◆被災者救援に携わったことのある人がいて、その経験・教訓を一般化できる場合は、その経験・教訓も付け加え、被災者のニーズの変化を可能な限り具体的に描き出して下さい。
  - (1) 阪神・淡路大震災教訓情報資料集（資料2）を主な手掛かりとして、地震で被災したとき、被災者がいつ何を必要とするのかを具体的にイメージします。
  - (2) シート「3」の「被災者のニーズ」欄に、時系列を考慮してニーズを記入します。ワークシートを模造紙に書き写し、付箋紙に具体的な被害を書き出して貼るなど、適宜工夫していただいて構いません。
  - (3) 可能であれば、第3次地震被害想定調査報告書（資料1）の各種シナリオと、「課題2」の成果を踏まえ、ワークシートの残りの欄を埋めて下さい。

### 参考

#### ○資料2 「阪神・淡路大震災教訓情報資料集」（抜粋）

資料2はボランティア活動に関する部分の抜粋です。他の部分は下記のURLを参照して下さい。

[http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin\\_awaji/index.html](http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin_awaji/index.html)

## <課題4>連携の現状を把握します

シート4

資料4

資料5

- ◆皆さんの市町災害ボランティア本部を設置・運営するにあたって必要な連携を考え、現状はどうなっているのかを確認します。
  - (1) 災害時のボランティア活動に関する市町村の取り組み状況（資料4）を参考に、皆さんの市町では誰がどのように災害ボランティア本部を設置・運営することになっているのかを確認します。
  - (2) 具体的に連携したい先を考え、シート「4」に記入します。既に連携が取れている場合は“1”、今後連携したい、または現在取り組んでいる場合は“2”の欄に記入して下さい。

### 参考

#### ○資料4 「災害時のボランティア活動に関する市町村の取り組み状況」

各市町行政の取り組みに関する調査結果です。

#### ○資料5 「第4回図上訓練参加市町チームの発表」より

前回の訓練に参加した市町チームは、訓練を通してどこと“連携したい”と考えたのかを確認して下さい。

## 訓練当日は…

- 訓練当日は市（区）町ごとのワークになります。初日の第1部は事前課題をもとに進めますので、作成した模造紙や記入したワークシートを持って来て下さい。
- 参加人数により、市（区）町単位でチームが組めない場合は、近隣の市（区）町が合同で訓練にあたっていただきますがご了承下さい。



## 第5回 静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 事前課題【県外】

図上訓練にあたり、参加者の皆さまには事前学習をしていただきます。課題への取り組みが、災害時のボランティア活動をより具体的かつ現実的に考える機会になることを期待しています。限られた訓練時間を有効に使うためにもよろしくお願いいたします。

### 1. 学習の進め方

- ◆各課題についてワークシートを完成させていきます。資料を参考にし、必要に応じて関係機関・団体などに相談して下さい。
- ◆ワークシートは課題を考えやすくするためのものです。より踏み込んだ検討が可能な方は課題に沿った項目を追加していただいて構いません。また、記入欄が足りない場合は適宜増やして下さい。

### 2. 内容

#### <課題1> 東海地震で私たちが住む市町はどうなる？

シート1

シート2

資料1

- ◆皆さんが住んでいる市(区)町村について再確認した上で、東海地震でどのような被害を受けるのか可能な限り具体的にイメージします。

- (1) 自分たちの市(区)町村について調べ、シート「1」に記入します。項目を追加する際は、シートを参考に適宜作成して下さい。
- (2) 各市(区)町村の被害想定結果と皆さんが住民としてお持ちの土地勘(知識・情報等)をもとに、東海地震でどのような被害を受けるのかを可能な限り具体的にイメージし、シート「2」に記入します。災害の発生は「予知なし、冬の朝5時」を想定します。

東海地震強化地域の被害想定は下記を参考にして下さい

#### ○各都県のホームページ

※愛知県の方は、レスキューストックヤード(TEL:052-253-7550)にお問い合わせ下さい。

#### ○内閣府ホームページの防災情報ページ<<http://www.bousai.go.jp/>>

※インターネットがご利用になれない場合は、都県や市区町村の担当課にご相談下さい。

※同封の「資料1 静岡県の第3次被害想定報告書(抜粋)」も参考にして下さい。

#### <課題2> 時間の経過に伴い、被災者が求める“もの・こと”はどう変化するでしょうか

シート3

資料2

- ◆地震で被災したとき、被災者がいつ何を必要とするのかを具体的にイメージします。
- ◆被災者救援に携わったことのある人がいて、その経験・教訓を一般化できる場合は、その経験・教訓も付け加え、被災者のニーズの変化を可能な限り具体的に描き出して下さい。

- (1) 阪神・淡路大震災教訓情報資料集(資料2)を主な手掛かりとして、地震で被災したとき、被災者がいつ何を必要とするのかを具体的にイメージします。
- (2) シート「3」の「被災者のニーズ」欄に、時系列を考慮してニーズを記入します。
- (3) 可能であれば、第3次地震被害想定調査報告書(資料1)の各種シナリオと、「課題1」の成果を踏まえ、ワークシートの残りの欄を埋めて下さい

※「資料2」は災害ボランティア活動に関する部分の抜粋です。他の部分は下記のURLを参照下さい。  
[http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin\\_awaji/index.html](http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin_awaji/index.html)

#### <課題3> 「県外」から駆けつける支援者として予測できる状況は？

シート5

- ◆「県外」から駆けつける支援者として、予測できる状況を“可能な限り”お書き下さい。

■訓練当日は、作成した記入したワークシートを持って来て下さい。

(参考)

東海地震に係る地震防災対策強化地域(案) (市町村一覧)

東京都	<u>新島村、神津島村、三宅村</u>
神奈川県	平塚市、小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、伊勢原市、海老名市、南足柄市、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
山梨県	甲府市、富士吉田市、塩山市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、春日居町、牧丘町、勝沼町、大和村、石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村、中道町、芦川村、豊富村、上九一色村、三珠町、市川大門町、六郷町、下部町、増穂町、鵜沢町、中富町、早川町、身延町、南部町、富沢町、竜王町、敷島町、玉穂町、昭和町、田富町、八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町、双葉町、明野村、白州町、武川村、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、河口湖町、勝山村、足和田村、鳴沢村、上野原町、秋山村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、小淵沢町
長野県	飯田市、伊那市、駒ヶ根市、飯島町、中川村、宮田村、松川町、高森町、阿南町、阿智村、下條村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、南信濃村、岡谷市、諏訪市、茅野市、高遠町、下諏訪町、富士見町、原村、大鹿村、上村、辰野町、箕輪町、南箕輪村、長谷村
岐阜県	中津川市
静岡県	静岡市、浜松市、沼津市、清水市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御殿場市、袋井市、天竜市、浜北市、下田市、裾野市、湖西市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、賀茂村、伊豆長岡町、修善寺町、戸田村、土肥町、函南町、韮山町、大仁町、天城湯ヶ島町、中伊豆町、清水町、長泉町、小山町、芝川町、富士川町、蒲原町、由比町、岡部町、大井川町、御前崎町、相良町、榛原町、吉田町、金谷町、川根町、中川根町、本川根町、大須賀町、浜岡町、小笠町、菊川町、大東町、森町、春野町、浅羽町、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村、龍山村、佐久間町、水窪町、舞阪町、新居町、雄踏町、細江町、引佐町、三ヶ日町
愛知県	<u>新城市、名古屋市、豊橋市、岡崎市、半田市、豊川市、碧南市、刈谷市、豊田市の、安城市、西尾市、蒲郡市、常滑市、東海市、大府市、知多市、知立市、高浜市、豊明市、日進市、東郷町、長久手町、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、一色町、吉良町、幡豆町、幸田町、額田町、三好町、設楽町、東栄町、津具村、鳳来町、作手村、音羽町、一宮町、小坂井町、御津町、田原町、赤羽根町、渥美町、津島市、七宝町、美和町、甚目寺町、大治町、蟹江町、十四山村、飛島村、弥富町、佐屋町、立田村、八開村、佐織町</u>
三重県	<u>大王町、志摩町、阿児町、伊勢市、尾鷲市、鳥羽市、熊野市、長島町、木曾岬町、二見町、南勢町、南島町、紀勢町、御園村、浜島町、磯部町、紀伊長島町、海山町</u>

※ 下線のない市町村は、現在の地震防災対策強化地域167市町村。

※2 線は、関係都県知事への意見聴取案で追加した62市町村。

※3 線は、4県より追加要望のあった34市町村。

計 263市町村

## 「カセット・ボンベ」

地震発生から1週間。被災地の多くの地区（約6割）では、都市ガスの提供が止まっています。交通機関などのインフラの復旧状況からしても、ガス会社や全国からの応援を含めても破損箇所の点検や修理に今しばらく時間がかかると考えられます。

現在、地元のガス会社と応援の県外企業では、病院などの大型施設に優先して「移動式ガス発生設備」を設置する。または、大規模な避難所には「LP ボンベ」を設置し始めているのが現状で、一般家庭や避難世帯ごとへの対応は遅れています。家庭用「カセット コンロ」用のボンベも数千本のストックを配布したものの、被災地全体への対応数は足りていない状況です。

また「カセット ボンベ」については、ニーズに対する数量の問題だけでなく、だれに？どこに？優先して配布するのか？また、どのような方法で告知して、どのように配布するのか？などという方法についての問題もあり、各地で混乱しているようです。

そのような状況のなかで、ホームセンター（日曜大工センター）の大手全国チェーン本社から、〇〇〇〇〇本部に投げかけがあったという情報がありました。

あなたの立場で、できることを考えて相談の上行動してください。

## 【考えよう】アレルギー編（約1週間後想定）

地震災害発生から約1週間。

避難所の中で、食物アレルギーがあり配給物資や炊き出しが食べられない子どもや、周囲の目が気になって仮設風呂を利用できないアトピー性皮膚炎の症状がある人がいるとの報告が災害ボランティア本部に届いています。

日常からアレルギーのある方々への支援や相談を行なっている「NPO法人アレルギー支援ネットワーク」より支援センターに対し、バイクボランティアとの協働によるマスクや清潔な下着、アレルギー対応食品等の提供、および相談窓口の設置をしたいという申し出があったという情報が、支援センターから届きました。

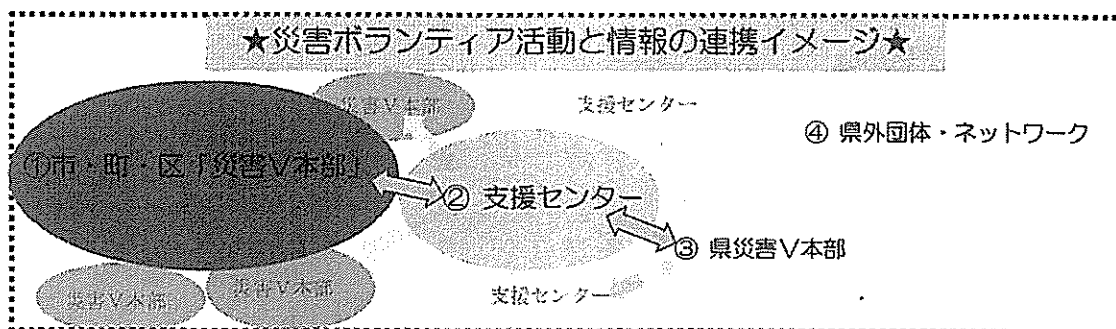
過去の災害では、各避難所にアレルギー支援ネットワーク連絡先が書かれたポスターを貼ったり、災害ボランティア本部を通じ、団体と当事者をつないだ例があるそうです。

現時点では市区町の災害対策本部で対応するのは難しいということです。

### アクション！

市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのように活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。（連絡は連絡票に書いて相手に届けてください）



## 【考えよう】ボランティア(コーディネーター)編

(約1週間後想定)

地震災害発生から約1週間。

数日前に災害ボランティア本部が立ち上げられ、市(区町)内を対象にボランティア募集を始めているが、市内の被害が大きく、思うように市(区町)内ボランティアが集まりません。

また、これまで養成講座などで育成してきたボランティアコーディネーター自身、もしくは家族が怪我をしまい、災害ボランティア本部に参集できない状況となっています。

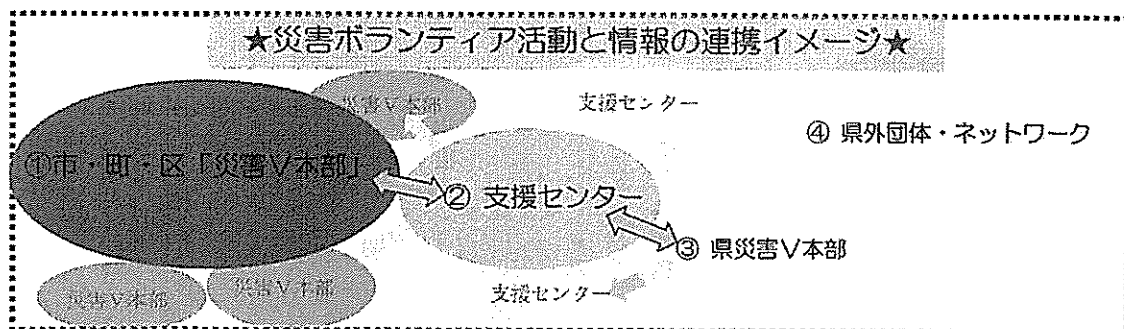
このままだと、災害ボランティア本部の運営に支障をきたすことは間違いないと考えられます。

一方、被災地外のボランティア団体やNPOなどは、ボランティア(コーディネーター)の派遣が出来る準備整っており、支援センターに「ボランティア(コーディネーター)派遣がすぐ出来るので、要望があれば連絡をほしい」という申し出があったという情報が、支援センターから届きました。

### アクション!

市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのように活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。(連絡は連絡票に書いて相手に届けてください)



## 【考えよう】点字サークル編（約1～2週間後想定）

地震災害発生から約1週間。

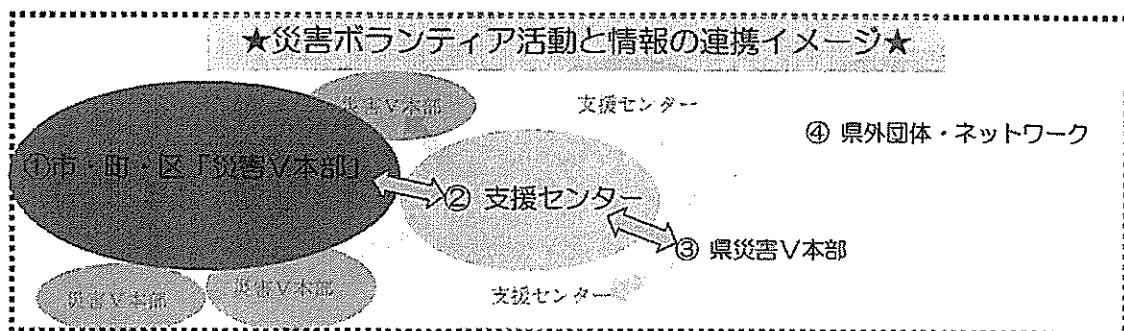
被災地では、避難所生活が始まっています。  
そうした中、避難所で視覚障害のある方から『避難所では文字情報が  
多く、視覚障害者には情報を得ることが難しい。』という相談が、市  
（区町）災害ボランティア本部に寄せられています。

そんな時、「点字・点訳サークルの広域ネットワーク組織」から『避  
難所に掲載されている情報を点訳するなどして、視覚障害者をサポ  
ートしたい』という申し出があったという情報が、支援センターから届  
きました。

### アクション！

市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのよ  
うに活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。（連絡は連絡票に  
書いて相手に届けてください）



## 【考えよう】おもちゃ図書館編（約2週間後想定）

地震災害発生から約2週間。

避難所には小さな子どもを抱えている家族も多く暮らしています。長く続いている避難所生活に子どももストレスが溜まっています。また、親も子どもの面倒を見なければならないため、被災した自らの家の片付けに行く時間が取れない状況です。

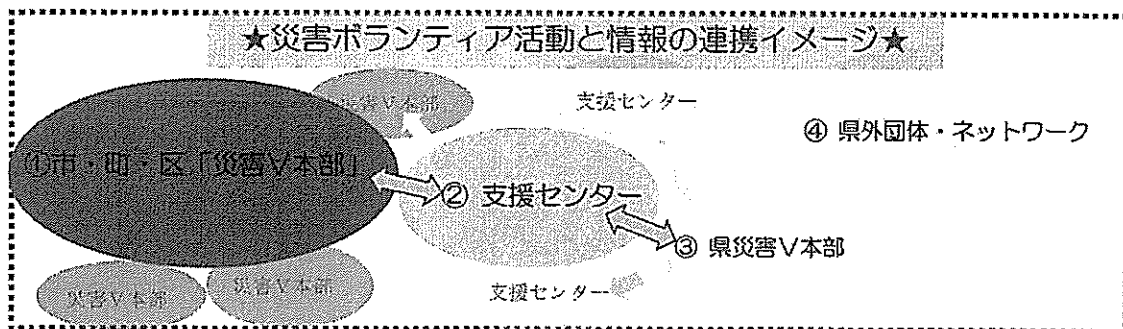
そこで、全国ネットワークを持っている「おもちゃ図書館」から『日頃の活動を生かし、避難所の一角などで子どもの一時預かりを行いたい。』との申し出が県災害ボランティア本部にあったという情報が、支援センター経由で届きました。

「おもちゃ図書館」はネットワーク組織のため、広範囲での活動が行えるとのこと。

### アクション！

市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのように活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。（連絡は連絡票に書いて相手に届けてください）



## 【考えよう】コミュニティFM編（約3週間後想定）

地震災害発生から約3週間。

市（区）町は、一時の混乱した時期から徐々に落ち着きを取り戻し始めました。

電気は7割がた復旧したが、水道・ガスはいまだ復旧していません。

県内にあるコミュニティFMでは発災当初より、独自に被災状況のレポートや行政との協定に基づき行政の支援情報は定期的に流しています。

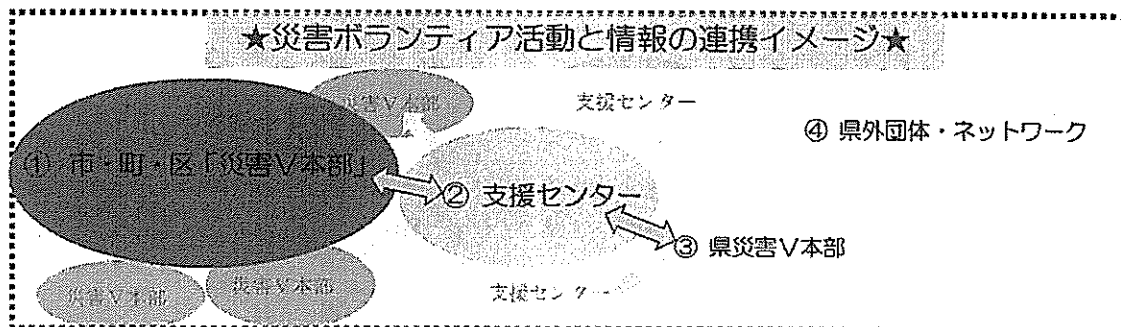
時間の経過とともに刻々と状況が変わっていく中で、コミュニティFMは被災者が今本当に必要としている地域情報があるのなら伝えていきたいと考えているという情報が、支援センターから届きました。

### アクション

どうしたら被災者が必要としている情報（例：支援物資の配給スケジュール、近所の店舗の再開状況、銭湯や自衛隊風呂の営業情報など）を入手し、的確に届けられるのか。

また、市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのように活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。（連絡は連絡票に書いて相手に届けてください）





## 【考えよう】士業連絡会編（約1ヶ月後想定）

地震災害発生から約1カ月。

被災者のなかから、家屋の補修や生活再建、各種支援制度に関する相談が寄せられ始めました。

東海地方のある県の「士業連絡会」から県災害ボランティア本部に対し、災害復興支援をしたいと申し出があったという情報が、支援センター経由で届きました。

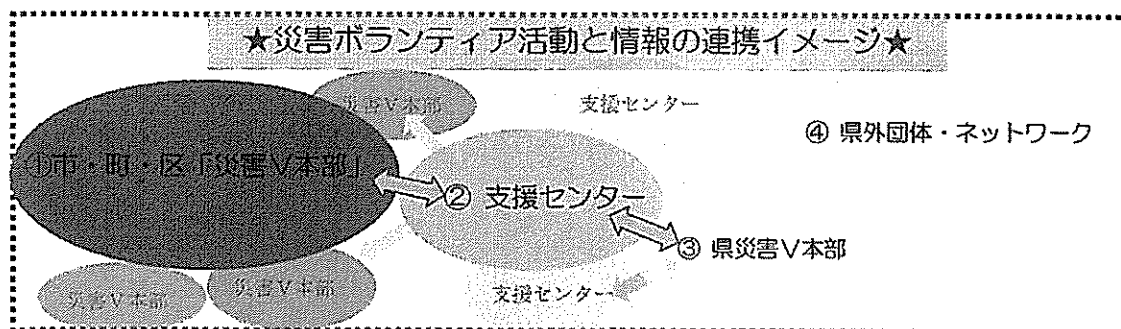
「士業連絡会」は、弁護士・税理士・司法書士・行政書士・建築士・不動産鑑定士・家屋調査診断士の七つの士業の集まりで、担当者によると「何か被災者のお役に立ちたい」と思っています。

現在は、「士業連絡会」のメンバーが個別に被災者の方の相談を受けているが、『被災者向け相談会を開くなどして災害復興に我々の知識を生かして貢献したい。みなさんの生の話を伺って何ができるか検討したい。』とのこと。

### アクション！

市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのように活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。（連絡は連絡票に書いて相手に届けてください）



## 【県災害V本部向け】学生ボランティア隊からの連絡編

地震災害発生から約1週間。

「NPO 法人国際ボランティア学生協会」から連絡が入った。

『災害救援活動の現場経験を積んでいる学生ボランティアが、首都圏から1,000人、関西圏から200人。出動準備を整え待機中です。いつでも現地入りすることができます。お手伝いすることはありますか』との内容。

彼らが言うには、

○指揮系統が整い、リーダー・グループ長クラスの学生は現場経験もあり、平時から基本的な訓練（応急救命法や危機対応など）を積んでいる団体。

○揃いのユニフォームや帽子で、一目で身分がわかるようにしている。

○移動・食事・住居などはすべて自前で行なえる。ただし、テントを張り火器を使用できるスペースだけ準備ほしい。

○基本的な作業装備も自前で準備できている。さらに、特別必要なものがあれば準備していくので連絡してほしい。動力系機材はあるが重機などは不可能。消耗機材の準備は可能。

○専門的なスキルは未熟なため、『がれきの撤去や人海戦術を必要とする狭隘地などでの作業、室内の片付けや家具の移動、ボランティアセンターの運営のお手伝い、足湯や子どもたちの世話など避難所での活動やお手伝い、パソコン・携帯端末などを使った情報ボラ、救援物資の仕分け、地域内でのニーズ発掘やローラー活動、炊き出しなど』、若さを生かしたマンパワー系の活動が得意。

○1,200人一気に一か所または多方面展開でも、数十、数百人ずつの継続派遣のどちらでも対応可能だが、一人二人は不可。指揮系統があるグループ単位（最小5名程度）で受け入れてほしい。

### アクション！

市区町の被災状況と被災者のニーズを考慮して、この提案をどのように活用するか考えてください。

連携が出来そうな相手と連絡をとってください。（連絡は連絡票に書いて相手に届けてください）

# 災害支援ニーズ把握を

東海地震想定  
震災区で図上訓練 ボランティアから連携

県内外の災害ボランティアのあり方を探る図上訓練部一や県内六エリアに  
ティアが共同で、東海 練が二十七日、静岡市 設置する「支援センタ  
地震発生時の救援活動 震災区の市民文化会館で



東海地震を想定して図上訓練を  
する県内外のボランティアら  
静岡市 区の市民文化会館で

開かれた。

各地のボ  
ランティア  
らが連携  
し、援助が  
地域の一人  
一人に行き  
届くことを  
目標に、毎  
年開催。県  
内や一都十  
二県のボラ  
ンティアと

ら「被災一週間  
後、県外から方セット  
ポンベ五万本が提供さ  
れる」ケースについて

も話し合い、参加者は  
被災状況や必要なポン  
ベ数などを記入した連  
絡票を手渡し、グルー  
プ間の意思疎通を図っ  
た。

参加した藤枝市青葉  
町の吉野晴男さん(左)  
は「実際の災害時も、  
まずは地域ごとの支援  
のニーズを把握するこ  
とが重要」と話してい  
た。訓練は二十八日に

県職員ら約  
三百五十人  
が参加し  
た。

訓練で

は、参加者

が「県本

た。訓練は二十八日に

も実施する。

(西山輝一)

## 本部運営、連携確認

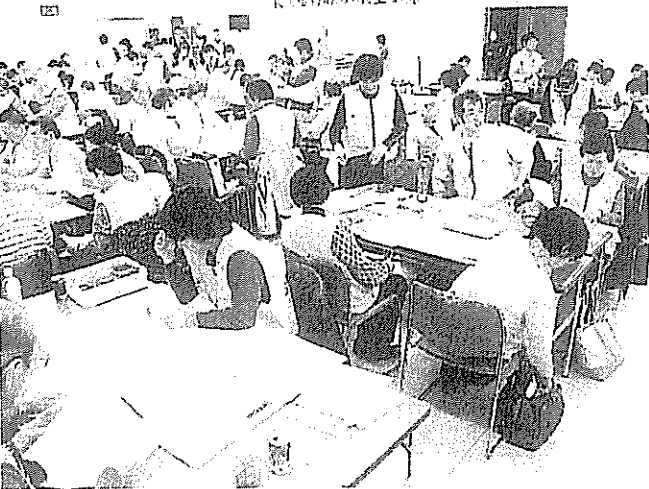
### 県内外の災害 ボランティアら 320 人図上訓練

静岡

県と県ボランティア協  
会などが主催する「県内  
外の災害ボランティアに  
よる救援活動のための図  
上訓練」が27日、静岡市  
震災区の市民文化会館で始  
まった。県内の災害ボラ  
ンティアや自治体関係者  
ら約220人と、県外の  
災害ボランティア約10  
0人が参加。28日までの  
2日間にわたって訓練を  
展開する。

初日はボランティア本  
部立ち上げや運営、県外  
のボランティアや行政と  
の連携について確認する  
作業を行った。28日は例  
題を設定し、演習を行う  
とともに情報共有など連  
携の課題について対策を  
検討する予定。

ボランティアや行政との  
信頼関係の構築と情報交  
換を行ってほしい」と話  
した。  
訓練は東海地震などの  
大規模災害発生時に、広  
域支援の仕組みづくりを  
考える場として2008  
年から始まった。小林佐  
登志県危機管理監は、訓  
練冒頭、「全国のモデル  
となる訓練を実施してほ  
しい」と呼び掛けた。



図上訓練に参加する県内外のボランティア  
静岡市震災区の市民文化会館

平成 22 年 2 月 28 日 (日)  
静岡新聞

<県内>			
都府県・市町	団体・機関名	人数	
伊東市 5	(社福)伊東市社会福祉協議会	2	
	伊東市赤十字奉仕団	1	
	赤十字防災ボランティア	2	
伊豆の国市 4	(社福)伊豆の国市社会福祉協議会	1	
	災害ボランティアコーディネーター伊豆の国	3	
伊豆市 1	災害ボランティアIZU	1	
下田市 5	(社福)下田市社会福祉協議会	3	
	下田災害ボランティアコーディネーターの会	2	
掛川市 4	(社福)掛川市社会福祉協議会	1	
	災害ボランティアコーディネーター掛川	3	
菊川市 4	(社福)菊川市社会福祉協議会	2	
	BRNきくがわ	1	
	菊川災害時ボランティアコーディネーター	1	
湖西市 2	(社福)湖西市社会福祉協議会	2	
	(社福)御前崎市社会福祉協議会	1	
御前崎市 7	御前崎災害支援ネットワーク	6	
	(社福)御殿場市社会福祉協議会	2	
御殿場市 8	運転ボランティア「たんぼぼ」	2	
	災害ボランティアコーディネーター御殿場	4	
三島市 5	(社福)三島市社会福祉協議会	1	
	災害ボランティアコーディネーター三島	4	
小山町 4	(社福)小山町社会福祉協議会	2	
	小山町生土自主防災	2	
松崎町 2	(社福)松崎町社会福祉協議会	1	
	松崎町役場	1	
沼津市 3	沼津市災害ボランティアコーディネーター協会	3	
裾野市 5	(社福)裾野市社会福祉協議会	5	
	(社福)清水町社会福祉協議会	3	
清水町 13	災害ボランティアコーディネーター清水町連絡会	10	
	(社福)静岡市社会福祉協議会	1	
静岡市 32	(社福)静岡市社会福祉協議会清水区地域福祉推進センター	3	
	災害ボランティアコーディネーター静岡	9	
	清水災害ボランティアネットワーク	8	
	静岡市災害ボランティアコーディネーター養成講座修了者	1	
	赤十字防災ボランティア	3	
	日本防災士会静岡県支部	4	
	平成21年度 災害ボランティアコーディネーター養成講座修了者	0	
	由比災害ボランティアコーディネーター	3	
	(社福)袋井市社会福祉協議会	1	
	赤十字防災ボランティア	1	
袋井市災害ボランティアの会	2		
長泉町 5	(社福)長泉町社会福祉協議会	1	
	災害ボランティアネットワーク長泉	4	
島田市 6	(社福)島田市社会福祉協議会	6	
	(社福)藤枝市社会福祉協議会	1	
藤枝市 6	災害ボランティアコーディネーター藤枝	5	
	(社福)南伊豆町社会福祉協議会	1	
南伊豆町 3	平成21年度 災害ボランティアコーディネーター養成講座修了者	2	
	(社福)熱海市社会福祉協議会	1	
熱海市 3	災害ボランティアコーディネーター熱海	2	
	災害ボランティアネットワーク函南	6	
函南町 7	赤十字防災ボランティア	1	
	(社福)磐田市社会福祉協議会	1	
磐田市 8	災害ボランティアコーディネーターチーム豊田	4	
	災害ボランティアコーディネーター磐田	2	
	赤十字防災ボランティア	1	
	(株)都田建設	1	
浜松市 9	(社福)浜松市社会福祉協議会西地区センター	1	
	(社福)浜松市社会福祉協議会天竜地区センター	1	
	(社福)浜松市社会福祉協議会浜松地区センター	1	
	(社福)浜松市社会福祉協議会浜北地区センター	1	
	(社福)浜松市社会福祉協議会北地区センター	1	
	(社福)浜松市社会福祉協議会本部	1	
	災害ボランティアコーディネーター浜松	1	
	北区災害ボランティアコーディネーター連絡会	1	
	富士市 11	(社福)富士市社会福祉協議会	1
		県立富士東高等学校	3
富士市災害ボランティア連絡会		7	
牧之原市 3	(社福)牧之原市社会福祉協議会	1	
	牧之原市災害ボランティアコーディネーター	2	
静岡県 47	静岡県生活協同組合連合会	1	
	静岡県災害情報支援システム研究会(展示・協力)	2	
	富士常葉大学環境防災学部	2	
	静岡県県民生活室	2	
	静岡県危機管理局	5	
	静岡県賀茂危機管理局	2	
	静岡県東部危機管理局	1	
	静岡県中部危機管理局	5	
	静岡県西部危機管理局	3	
	(財)静岡県労働者福祉基金協会	3	
	静岡県労働者福祉協議会	1	
	連合静岡	1	
	(社福)静岡県社会福祉協議会	5	
	(特活)静岡県ボランティア協会	13	
県内計		215	

<県外>		
都府県・市町	団体・機関名	人数
愛知県 18	(特活)レスキューストックヤード	4
	あいち防災リーダー会	1
	なかがわ災害ボランティアネットワーク	1
	なごや防災ボランティアネットワーク昭和	1
	災害ボランティアコーディネーター名古屋	1
	天白でいぶり	2
	豊橋防災ボランティアコーディネーターの会	3
	防災ボラネット守山	1
	名古屋きた災害ボランティアネットワーク	1
	名古屋みずほ災害ボランティアネットワーク	2
名古屋みどり災害ボランティアネットワーク	1	
宮崎県 1	県民がつくる宮崎防災ネットワーク	1
三重県 2	(特活)みえ防災市民会議	1
	いなべ非常通信ボランティア	1
山梨県 4	(特活)グローカリー山梨	1
	(特活)山梨県ボランティア協会	1
新潟県 2	天理救災支援救済ひのきしん隊山梨教区隊	2
	(社)中越防災安全推進機構復興デザインセンター	1
神奈川県 20	(特活)住民安全ネットワークジャパン	1
	(特活)神奈川県国民保護協力会	1
大阪府 2	あいかわ町災害ボランティアネットワーク	1
	あかつきボランティアネットワーク	1
	かながわ災害救援ボランティア支援センターサポートチーム	1
	はだの災害ボランティアネットワーク	1
	横須賀災害ボランティアネットワーク	3
	海老名災害ボランティアネットワーク	2
	国際救急法研究所	1
	時事通信社編集委員	1
	神奈川デジタルネットワーク	1
	神奈川レスキューサポート・バイクネットワーク	1
瀬谷区災害ボランティアネットワーク	4	
川崎・災害ボランティアネットワーク会議	1	
基盤地図情報活用研究会	1	
大分県 4	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	1
	からほり倶楽部	1
東京都 17	(社福)大分市社会福祉協議会	1
	国東市社会福祉協議会	1
徳島県 5	大分県社会福祉協議会	1
	大分県防災危機管理課	1
	(株)ダイナックス都市環境研究所(協力)	3
	(株)レスキューナウ	1
	(社)シャンティ国際ボランティア会	1
	(社福)世田谷ボランティア協会	2
	(社福)千代田区社会福祉協議会	0
	(社福)全国社会福祉協議会 全国ボランティア活動振興センター	1
	(特活)アドラ・ジャパン	1
	(特活)国際ボランティア学生協会	1
(特活)日本ファーストエイドソサエティ	2	
公益社団法人 Civic Force	2	
災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード	0	
社会福祉法人紫苑の会	1	
大切な人を守りたい	1	
東京ボランティア・市民活動センター	1	
東京災害ボランティアネットワーク	1	
徳島県 5	徳島市災害ボランティアグループ「徳島の風」	1
徳島大学防災サークル まもりすと	4	
栃木県 3	(特活)とちぎボランティアネットワーク	3
兵庫県 3	神戸大学学生震災救援隊	1
被災地NGO協働センター	2	
和歌山県 2	総本山金剛寺	2
県外計		83
オフザバー 4	内閣府(防災担当)	4
見学 18	掛川市	2
	浜松市	5
	御前崎市	1
	湖西市	2
	袋井市	2
	磐田市	1
伊東市	1	
静岡市	3	
愛知県	1	
総計		320

地域・現場からの声

地区	市区名	課題	内容
賀茂地区	松崎町	地域支援センターの問題	地元は災害センター運営のコーディネーターが不足しているため、支援センターに派遣の要請をした。支援センターも人手不足を理由に受け入れられなかった。何か別の方法の回答がほしい。(役割不足でした) 道路網について支援センターは情報を密に各ボランティアセンターに連絡してほしい。
		賀茂支援センターのあり方	支援センター自体が人材不足の可能性あり。伊豆南部の孤立する地域を抱える市町は空からの支援が重要。
		マンパワー・(ボランティア)の確保	コーディネーターの必要性 <課題> ・支援センターの問題 ・アドバイスを付けるべき。分かりませんや”NO”は最後。
	南伊豆町		・一人暮らしの高齢者に対する避難対応。 ・医療の確保と通院の手段 ・トイレの確保、衛生管理
東部地区	伊豆の国市	市民の災害意識(防災)を高めるために	1. 力のある被災地経験豊かなスピーカーの声を市民に聞かせたい。 2. 市民の防災意識(VCの件も含む)の向上は、なかなかアップしない。 3. 各地域へ出前講座の開催が望まれる。
	伊東市	近隣県との連携・県内の区分の問題	伊東の場合、特に神奈川との連携が有効と思います。
		安否確認	要援護者だけでなく、不安を感じている人など、安否確認が必要な人の把握を効率的に行うよい方法はないか。(個人情報への配慮を)
		各支援センターの担当区域について	予想される被害と、各支援センターの設置場所、担当地域がそぐわない気がする。東部・賀茂地区は特に見直しが必要では？伊豆半島を東西に分けるなど？連携をしやすく。
	熱海		★地元地域で取り組みたい課題 1. 災害ボランティア本部立ち上げについて 住民や自主防災会の役員の方自体、本部を作ることも知られていないし、ボランティアコーディネーターの存在自体分かっていないので、今後大いにPRするとともに、行政、社協を通してすすめていきたい。 2. 住民がすべてボランティアという意識をもってもらいたい。県外からの応援者もすぐにはこれないので、とりあえず、数日間は住民が支援協力していく必要があるの、その認識をいかにもつか検討していく必要もある。 3. 県外からの応援者の受入について
	三島市		・コーディネーター高齢化。人数不足。 ・パソコンの取り扱い専門者の確保。
	裾野		・要援護者の救済、専門職の派遣 ・ボランティアの育成 ・近隣市町との連携 日頃からの交流
	御殿場市	全国から集まっているボランティアの窓口	・全国から入ってくるボランティアの調整は、だれがするのか。 ・県内の調整だけではなく、県外団体の調整を必要。 ・担当を決める。たとえば、神奈川の団体で基地局を作り、東部を担当等。 ・各市町から出てくるニーズ、各市町の特徴をとらえて県外のボランティアとどうつなげるのか。
	函南町	住民の防災意識の向上	・町民全体に流れる関心のなさ(無関心)をなんとか防災に向けるようにしたい。(北伊豆地震の教訓である「丹那断層」の利用など) ・たとえば、防災訓練に住民の多くが参加している地域があれば、その秘策を知りたい。(四円センターでとりまえとめていただけるとありがたい)
	函南町	行政、社協との連携	・行政、社協、ボランティアの3者の連携は、他の市町を比べるとかなりの温度差(冷たさ)を非常に感じる。 ・連携がうまくいっている市町が、なぜ連携が図れているのか、各市町での連携のノウハウを収集し、連携の在り方をさぐる手助けとしたい。
小山町		・ガスボンベの想定訓練 ・市(区)町村の被災イメージ ・被災者のニーズに期待されている作業や役割 上記の訓練を地元で学習に取り入れていきたい。  ・県外ボランティア団体に静岡版の頭上訓練を知ってもらえる。 ・東日本ブロックともう少し、連絡体制を作っていきたい。	

地域・現場からの声

地区	市区名	課題	内容
中部地区	静岡市清水区		・支援センターが何をしてくれるのか(何をしたいのか)明確にしてもらいたい。しかし、誰に聞いていいのかわからない・・・。 ・他の地域の災害弱者と言われる人たちに対する取り組み状況を知りたい。
	静岡市葵区		・被害情報の収集したものを吸い上げ、適切な具体的指示支援をお願いしたい。 ・サテライト立ち上げに関する人・物・金・場所 ・中期的な支援、人・物・金の確保 ・専門的なボランティアの確保 ・ボラセン立ち上げ作業の消化 ・ボラセンに求められているも(受援力&連携etc)の抽出 ・避難場所の増設 ・ペットの避難について ・ここでの取り組みを町内会や自治会へも教えてあげればよい。
	静岡市駿河区		各団体や企業の対応が分かれば、ボランティアも無駄ない動きができるのではないかと。 リストアップした資料があればよい。(ボランティアと役所の担当者、企業の災害担当者との話し合いがあってもよいのでは?・・・)
		情報収集	一人ひとりが足でかせぐ情報・・・はともかく、ex.カセットボンベの必要性を知りたいとして一向の力も持っていない。→所詮、自分らの実力の範囲内でやるしかないのだが、「町内会、連合町内会、自主某との連携を図ろう」では役に立たぬ。何か役にたつための取り組みを。
		駿河区でボランティア本部を!	駿河区を独自にとなると、改めて、安倍川以西(長田地区)と以東を別々に対応することを考慮せざるを得ないだろう。(区役所でさえも長田支所が必要になった)
	藤枝市	ボランティアセンター(ボランティア本部)の円滑な運営について	①静岡市、浜松市(制令市)にはさまれ、大井川、安倍川、富士川等で、中央の藤枝までボランティアが来てくれるのか心配です。 ②ボランティア活動に必要な資機材の調達に不安が残ります。 ③情報の発信のツールの研究が必要 ④自治会、自主防災会との連携が不十分です。十分にする方策を考えたい。(どこかうまくやっているところがありますか?)
	島田市	心のケアについて	身障者・老人、子供・・・その他の人々の心のケアに、対処する人員が不足していますので、支援をお願いします。(できるなら専門家を)
孤立地域への支援方法		山間地域が孤立することが想定され、その地域で発生する各問題についての支援が陸上支援ができないときに、ヘリコプター活用をお願いしたい。	
牧ノ原市	情報発信・連携方法	・相良地区は御前崎市と接している。支援センターは中部だが、西部地区の支援も依頼していきたい。(行政区割りは考えない) ・地域の情報をどう集めて、発信をしていくのか?優先順位をどうしていくのか? ・市内でのネットワークの形成が必要(区や町内会) ・外国人世帯、アパート世帯への対応→地域コミュニティに連携 ・障がい者(視覚・聴覚)への情報伝達→地域コミュニティに連携 ・市内ボランティア団体とのネットワークづくり	
西部地区	御前崎		<課題> ・道路を状況・物資の搬送について →誰が、どのように、どのようなルートで行うか? ・浜岡原発について →正しい情報の把握と伝達(デマ・ゴミ)が発生するかも。 ・避難所の収容について →入れる人の把握 ・港の流木などの対策→津波が起きたら・・・。 <支援センター> ・御前崎への物資等の調整、道路状況の情報発信 <県本部> ・原発に関する対応方法についての指導(国から) ・港湾の対策について <県外> ・御前崎のことを忘れないで来てください。
	菊川市	外国人への対応について	・災害が起り、避難所に外国人がいる場合の課題等あれば、ご教示いただきたい(通訳、食事、文化の違い等)
	掛川市		・市と市民が同じ席について話す機会
	磐田市		我々ボランティア(コーディネーター)が行政、社協、または他協力者との連携がとれていない。 いくらやる気があっても、どこにそれを持っていけばいいか。  (以下、付箋がはられていたもの) ・避難所への誘導 ・被災地内の防犯対策 ・行政、社協との連携がとれていないと思われる。 ・市全体については、想定が及ばない。知っている範囲で考えが出るだけです。 ・子ども、高齢者の話し相手になってほしい。 ・「全部の市町が同じ体制が整っているわけではないよ」 ・他協力者との連携が今回は入っていない。
	袋井市	避難所の運営について	現時点では、避難所は市職員が行うが、自治会との連携はどのように図るべきか。また避難所に来ることのできない人への対応はどうしなければならないのか。
袋井市	災害時要援護者について	災害時要援護者に対して、効果的にボランティア活動を行うため、日頃から取り組むべきことについて教えてほしい。	

地域・現場からの声

地区	市区名	課題	内容
	賀茂地区支援センター	ボランティアの安全衛生	支援センター、各市町のボランティア本部にボランティアの安全衛生について考える組織、具体的に対応できる機能も必ず必要となると思われる組織図内に明記することが第一歩。
	賀茂地区支援センター	陸路の確保	賀茂支援センターの地域については、陸路が期待されないため、空路、海路等の確保と整備が必要。それがなければ、ボランティア活動が成り立たない。 市町のボランティア本部と支援センター、支援センターと県本部の情報共有もそれなしには考えられない。
	中部支援センター	災害時のネットワークづくり	災害時につながれるボランティア団体との「顔の見える関係」構築を目指したい。
	西部支援センター	支援センター同士の横の連携	・浜松市天竜区、牧ノ原市への支援は西部支援センターから行うほうが良いと思います。 ・当然(今日の訓練と同様)支援要請も来るはず。 ・行政区で分けるよりも、地理でわかるべきです。
	(未記入)	外国人対応	・外国人の多い地域での発災時の混乱を乗り切る方法 ・通訳ボラの確保や外国人の要望にあった物資の調達は必要なので、その確保、ルート ・それ以前に、地域内での普段からの交流が心のつながり、文化の違い等、理解を深めることにより、発災時の混乱を解決できる問題があるように思う。
	(未記入)		地域住民から見て、支援センター、県ボランティアがよく見えていないので、更に情報交換を密にし、有事に備えることが大切と思う(対・住民)(対・自治会)(対・企業団体)
	県外からの参加者 (3名の意見) ※磐田市に入ったと思われます。		感じたこと ①地域に対する理解ができていないのでは。 ②課題(意見)は多く出ているが、結論が出ないままに、いつの間にか、次の課題に入り、話題が前後して終了してしまった気がしました。 以上、1日目。 ③2日目は社協の小栗さんが、コーディネートされ課題がまとまったと感じました。